**歴史遺産「江戸・福岡藩の長崎御番」記念（博多どんたく港祭りに参加　福岡～長崎・出島～オランダ「帆船クルージング」交流会**　　　　　　素案

![ボートに乗っている帆船  自動的に生成された説明](data:application/octet-stream;base64,)

江戸時代**長崎番船**帰福絵図

使用帆船

**みらいへ**号



予定航路

![ダイアグラム, テキスト  自動的に生成された説明](data:application/octet-stream;base64,)



江戸時代・**長崎港・出島の警備**を福岡藩では「長崎御番（ながさきごばん）」と称していた。

寛永（かんえい）19（1642）年に佐賀藩が、長崎港の警備を江戸幕府から命じられて以後、

福岡藩と佐賀藩は、1年交代で長崎の「出島に来航する外国船」の警備に当たった。

江戸時代・鎖国（さこく）体制下の貿易港長崎にかかわった福岡藩の役割は、佐賀藩を除いて他藩にはない。一大事業であつた。出島警護の他密輸事件など、**オランダ商館長日記**には様々な記載がある。

その概要は、福岡市立博物館記録　[No.084 長崎警備と福岡藩1 | アーカイブズ |](https://www.bing.com/ck/a?!&&p=424baebc684f1af9JmltdHM9MTY3NTcyODAwMCZpZ3VpZD0wZjBjYzk4My1mMzVjLTZhOTMtMjJhYS1kODA5ZjI5MjZiNjImaW5zaWQ9NTE2Nw&ptn=3&hsh=3&fclid=0f0cc983-f35c-6a93-22aa-d809f2926b62&psq=%e9%bb%92%e7%94%b0%e5%ae%b6%e3%81%ab%e3%82%88%e3%82%8b%e9%95%b7%e5%b4%8e%e5%be%a1%e7%95%aa%e3%81%a8%e8%a8%98%e9%8c%b2&u=a1aHR0cDovL211c2V1bS5jaXR5LmZ1a3Vva2EuanAvYXJjaGl2ZXMvbGVhZmxldC8wODQvaW5kZXguaHRtbA&ntb=1) にもある。

長崎御番の勤めは、福岡市西公園下の旧荒津港から、４０隻近い大船団で年に４往復、長崎の出島と行き来している。一回の随員は、1,000名を超えた。

出島警護（長崎御番）に使う帆船は、**長崎番船**と呼ばれ、荒津港を出港・帰港する際には、乗組員達が

笛太鼓を賑やかに囃したと伝えられている。

※この情景は、日本地図作製でたまたま通り合わせた、**伊能忠敬の日記**にも特記されている。

●1年毎とは言え、藩士に限らず商人・水夫に至るまで、欧州文化を直に接することが出来た

「長崎御番」の勤めが、福岡藩にもたらしたものは、何だったのか・・、

●この長崎御番に参加した、福岡藩の藩医「原三信６代目」は、教科書に書かれている「杉田玄白の解体新書」より90年も前に、当時最新版の西洋解剖書「レメリンの解剖書」を書写。同時にオランダ外科医免状を取得、外科手術用の機器も購入して、福岡藩の医療レベルの向上に貢献しています。進取の気性の手本。

●この企画は、果たして江戸時代の帆船は、どのような航海をしたのか・・　を紐解くことでもある。

この「江戸・黒田藩：長崎御番」帆船航海体験は、江戸期の黒田藩とオランダとの交流実情を解き明

かす、福岡ならではの企画・祭りにしたい。

それは、新しい文化を取り入れることの大切さを学ぶことであり、これからの福岡の未来を切り開く

糸口にもなる。又、青少年の国際交流・海洋志向の向上にも貢献する。

●　帆船クルージング交流会は、博多どんたく港祭りに合わせて行い、荒津港に到着した翌日は、オラ

　　ンダの民族衣装をまとって、どんたく行列に参加。

1６Cから栽培が始まった、現在オランダ国を代表する花「チーリップ祭り」をなぞり、祭りに、

花を添え、福岡～オランダ（長崎出島）交流促進の懸け橋となる。

　　　　行列は、チューリップ満載のトロッコを引き、花・球根やオランダ菓子を配り歩く。

　　　※　オランダ本国でのチューリップ祭りは、4月いっぱい、各地で開催される。

★アウトライン・・

「**福岡～長崎出島～オランダ・帆船クルージング交流会**」を編成する

　　※サロンド附設・福岡が中心になり、クラウドファンディングなどで資金を集める

　　　　　後援依頼予定：附設OB、長崎出島、オランダ領事館、ハウステンボス、日本財団、他

　　　開催：

**博多どんたく港祭りにあわせる　５月２～４日の間**

　　　使用する帆船：　NPO ゼリ・ジャパン　所有（東京都品川区東品川1-25-8）

03-6863-8170 F 03-4361-4528 片山

　　　　　　神戸港所属　**帆船「blueocean みらいえ」２３０トン、船内泊　４０名**、

　　　　　　　　　　福岡―長崎　航海時間　３０～40時間

　　　日程案：5月２～４日

　　　　　2日　福岡発：　８時発、貸し切りバスで、出島へ、見学（12時まで2時間）

　　　　　　　長崎：**出島岸壁発**　　１３時発　　帆走開始

　　　　　　　　　　洋上学習　　19時から21時まで

　　　　　３日　　　　　**洋上泊**

　　　　　　　　　　　　　　　　翌日10時から　12時まで

福岡：**荒津港**（西公園下：カモメ広場岸壁）　16時～１８時　着

　　　　　帰港しての報告会　２０時解散

４日　どんたくパレード、カモメ広場・演舞台でお披露目・演舞に参加

　　　　　　　　　　　「帆船みらいえ」が、カモメ広場岸壁に接岸：見学可能

　　洋上学習　乗船者　３０名　　附設高校「帆船クルージング部員」

　　　　　　　　　　　　　　　　公募枠：福岡県内　海洋スポーツ少年団等で海に興味がある中高学生

　　　　　　　　　　　　　　　　　　オリエンテーション・事前学習・

　　　関係者　乗船　　１０名　　１福岡市役所・商工会議所　どんたく関係者

　　　　　　　　　　　　　　　　２福岡県議会　関係者



　　　　　　　　　　　　　　　　３福岡市立博物館学芸員

　　　　　　　　　　　　　　　　４原寛（NPO代表・発起人代表、能古博物館理事長）

　　　　　　　　　　　　　　　　５オランダ国関係者（福岡又は長崎在住）

　　　　　　　　　　　　　　　　６



　　　　　　　　　　　　　　　　７

　　　　　　　　　　　　　　　　８福岡市政記者クラブ新聞社代表

　　　　　　　　　　　　　　　　９　同　テレビ局代表

　　　　　　　　　　　　　　　　10　サロンド附設関係者

　　　　　●　募金予算：　350万円、

　　　　　　　　　　　　船のチャーター代金　250万円

実行するには・・・

　●　久留米附設OB会により、長崎番船記念「帆船クルージング部」を寄付する。

　　　　　大学の記念講座に相当する。表記部を附設内に設け、毎年、部活資金を支援する。

　●　大義名分は、

　　「附設が位置する久留米にな海がない。しかし、学生の夢は世界・・宇宙である。

　　附設の伝統の一つは、医師の養成。健康・医学の発展を夢見て勉学に励んでいる」

　　江戸時代の長崎出島警護は、帆船の大航海の恩恵で世界の文化に接する機会に恵まれた。

　　その一つとして、福岡藩医・原三信は、出島の医師に、当時、最新の外科医学を学び、解剖書を

　　書写、手術機器を購入して、地域医療に貢献してきた。

　　当時、我が国には、外科医学は、存在せず、藩主は、関ケ原の戦いや、島原の乱で、家臣が沢山，

　　負傷して治療の術がなかった。（福岡藩士は、島原の乱で多数負傷していた）

　　オランダ（ヨーロッパ）の外科医学は、藩医として、垂涎の学問であった。

　　　　　　　　・・進取の気性の典型である

　●「帆船クルージング」航海は、年に一度だが、日ごろは、帆船航海術を学ぶ。

　　「長崎御番」時代（江戸時代）の大航海の歴史・「オランダ出島商館日誌」を紐解き、世界史感

　　　を養成する

　●「福岡番船記念・帆船クルージング部」のメンバーは、博多どんたく港祭りに合わせて、

　　　長崎～福岡の帆船クルージングを体験し、どんたくの行列に参加する。

　●　演舞台では、演劇部や音楽サークルの友情出演を得て、福岡～オランダの友好親善に寄与する。

　　※どんたく参加は、久留米附設が、福岡で社会貢献をしている証をPRする機会にもなる

　●　勿論、福岡番船の乗船者は、附設生徒に限定せず、広く、乗船者を募る。

　　　　　　　　　附設生は半分、あと半分（１５人）は、広く公募する